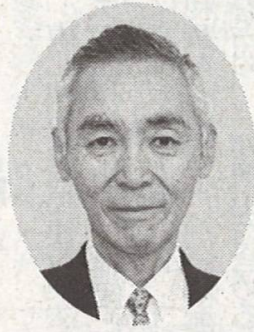


『この人』に聞く



徳納 剛氏

福徳技研

社長

「コンクリート構造物の健康寿命を延ばすことが目的。社会資本整備

全体のことを考え、良い技術の提供に努めたい」と謙虚に語るのは、福徳技研の徳納剛社長。同社の「ASRや塩害により劣化したコンクリート構造物の補修技術」が、第26回中国地域ニュー

「リハビリ工法」でNB大賞 健康寿命延ばす良い技術提供を

もともとは徳納社長が約20年前に考案したものをベースにしているが、改良と試行錯誤を重ねて完成度を高め、広島県内だけでなく全国でも急速に実績

を伸ばしていることが今回の受賞に結びついた。建設業の大賞受賞は、今回で4例目となる。

ち上げて会員に講習をし、高いレベルの技術を提供することも、全国フォーラムでは他団体等にもご協力いただきながら、特定の工法に偏らない情報提供をしている。最適な補修工法を知るためにきつと役に立つはずなので、ぜひ多くの方に参加してほしい。

が注目されているのだろう」と分析。過去の実績は土木中心だが、「コンクリートは土木より建築が多い。スクラップ&ビルドがこれまでの考えだが、今

新規性や独創性に加え、売れるかどうかの市場性も重視されるが、「もうけたいとか、我田引水のような考えは持っていない」とキツパリ。協会のHPから確認することができる。

徳納社長は受賞要因について、「これまでコ

「そのために協会を立